

出没が起こったら | 事前準備と現場対応

株式会社 野生動物保護管理事務所
中川 恒祐

講演要旨

近年のクマ類の分布域の拡大等を背景に、クマ類の出没が増加している。それに伴い市街地や集落での出没もこの5年間で増加傾向を示しており、市街地出没のニュースが報道を賑わせている。本講義では、クマ類の出没時の現場対応の方法や注意点と出没が起きる前に事前に実施すべき体制構築・整備について説明をする。

■現場対応

出没があった際は、事前に整備しておいた体制の下、迅速で適切な対応を進めることとなる。特に近年は、集落や市街地等にクマ類が出没する事案が増加していることから、対応方法をよく理解し適切な判断を下すことが一層求められている。出没個体への対応方法としては追い払い、猟銃や麻酔銃、捕獲檻などによる捕獲、監視などが選択肢としてある。それぞれの方法には、特徴や適用に適した状況、注意点があるため、出没した状況に応じて対応方法を選択することが重要となる。現場対応の際には、役割分担を明確にして、安全に対応することが必要であることから、主に行政職員が担う役割や注意点などをいくつかの市街地での対応事例を交えて説明する。

近年市街地に出没したクマ類に対して銃による対処が必要となる状況が増加していることから、住居集合地域等における銃の使用についての関連法令も紹介する。

■事前準備（体制構築・整備）

出没状況に応じた対応方針の策定や対応のフロー図などを準備しておくことで、いざ出没があった時に混乱なく対応することが可能となる。出没に対応する人員の確保は、対策の要となる。対応者に求められる条件や内部・外部機関から配置する上でのメリットやデメリットを説明する。

市街地等での出没対応は今後さらに増加することが予想されるが、現状では対応方法が十分に確立されていないため、今後対応事例を収集、共有することで具体的な方法を確立していくことが求められる。